

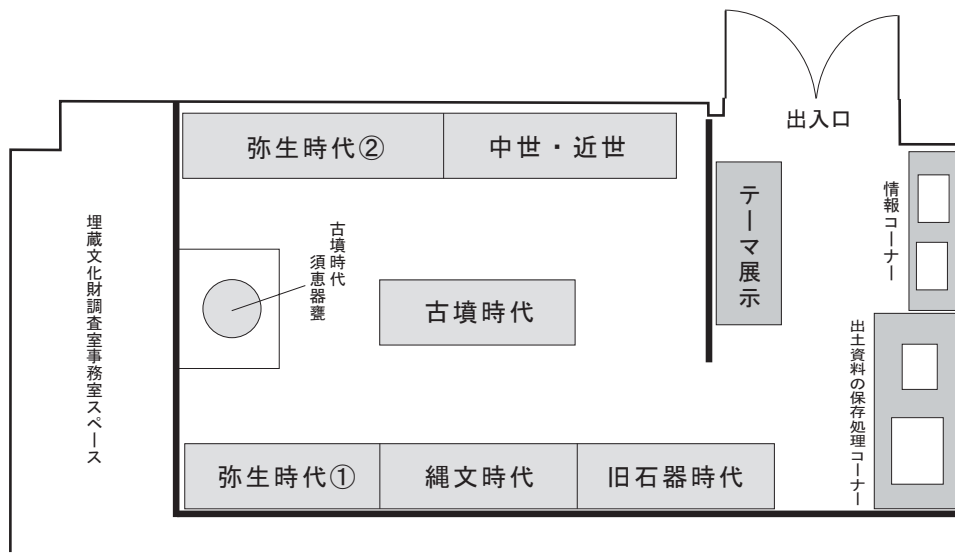
1. 普及・研究活動（2007年度）

1. 2007年度（平成19）普及活動の概要

2007年度に実施した普及活動としては、出土遺物の展示・公開、出土資料・記録資料の貸出、出土資料の閲覧、ホームページの開設・公開などがある。

1) 出土遺物の展示・公開

2006年（平成18）10月に広島大学総合博物館が設立され、埋蔵文化財調査室は総合博物館のサテライト館として位置づけられた。埋蔵文化財調査室では1996年（平成8）から調査室の一部に展示室を設置し、出土遺物を公開しており、総合博物館と協議して既存の展示室を大幅に改修して総合博物館サテライト展示室とすることとした。これを受けて、2005年9月に埋蔵文化財調査室展示企画ワーキンググループ（構成員4名）を設置し、展示内容、配置などについて検討して、「総合博物館サテライト埋蔵文化財調査室展示室」案を策定した⁽¹⁾。この案をもとに総合博物館と調整を行い、業者選定を行った後、展示資材などの変更などの微調整を行った⁽²⁾。展示室の改修は2007年3月に実施し、2007年4月初めから約1ヶ月半をかけて展示準備を行い、2007年5月19日に開館の運びとなった。



第 66 図 埋蔵文化財調査室展示室（総合博物館サテライト）平面図

開館のオープン記念事業は、1) 記念講演、2) 展示室公開、3) 保存遺跡見学の3部門構成とし、5月19日(土)13時から実施した。記念講演は、調査室設置当初から約20年間責任者として運営に携わった広島大学名誉教授河瀬正利先生に依頼し、「賀茂台地の遺跡を読む」と題する講演が行われた。講演では、広島大学東広島キャンパスが位置する西条盆地の原始・古代を概観する中で、これまでの調査で明らかとなった東広島キャンパスの遺跡の位置づけや調査の意義などについて語られた。展示室公開は14時30分頃から行い、講演参加を中心に120名の見学者が訪れた。遺跡見学会は15時過ぎから行い、鴻の巣南遺跡(弥生時代後期住居跡)、鴻の巣遺跡(弥生時代中期住居跡)、山中池南遺跡第2地点(古墳時代住居跡、須恵器焼成窯跡)の順で見学を行い、16時過ぎに全ての日程を終了した。

展示室の開館は、調査室の体制から平日(月～金)のみとし、当面10時～17時で運営することとした。展示室は約30㎡で、入口付近を導入部とし、東広島キャンパス内の遺跡分布図や調査室ホームページの閲覧、主要遺跡のスライドショー上映などを配置した。展示室主要部分は、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、歴史時代の5時期に区分して、入口方面から時代順に展示ケースを配置し、展示室中央には、やや変則的であるが、古墳時代関係の出土遺物を展示した(第66図)。展示スペースが非常に狭く、出土遺物のごく一部しか展示することができないため、東広島キャンパスの遺跡について各時代の遺跡の性格がもっとも表現できる遺物を選定して204点を展示した。各時代のテーマおよび展示点数などは、以下の通りである。

- ①旧石器時代：鴻の巣遺跡、西ガガラ遺跡と道具の変遷(尖頭器、ナイフ形石器、台形様石器、石斧ほか64点)
- ②縄文時代：山中池南遺跡群と狩猟活動(縄文土器、石鏃、石匙ほか60点)
- ③弥生時代：鏡西谷遺跡と祭祀(分銅型土製品、絵画土器ほか36点)
- ④古墳時代：陣ヶ平西遺跡、山中池南遺跡第2地点と手工業(須恵器)生産(須恵器15点)
- ⑤歴史時代(鎌倉時代)：鏡西谷遺跡と交易(中国産青磁、瓦器、土師質土器ほか20点)
- ⑥歴史時代(江戸時代)：鏡東谷遺跡と農村の生活(磁器、土師質土器鍋ほか9点)

また、参考資料として、旧石器時代では、石器製作道具(復元品)、石材見本、縄文時代では弓矢(復元品)、縄文土器(広島市比治山貝塚深鉢形土器：広島大学考古学研究室より借用)、弥生時代では鉄器(復元品、広島大学大学院文学研究科古瀬清秀氏より借用)を展示した。



写真 31 開館記念事業（記念講演）



写真 32 開館記念事業（展示室公開）



写真 33 開館記念事業（整理室公開）



写真 34 開館記念事業（保存遺跡見学会）



写真 35 展示室入口



写真 36 展示室（情報・出土遺物保存処理コーナー）



写真 37 展示室（テーマ展示コーナー）



写真 38 展示室（常設展示）

各時代の展示の概要は、東側の壁面沿いに横型展示ケースを3基配置し、北側から旧石器時代、縄文時代、弥生時代の出土遺物を展示し、隣接の壁面に関連の解説パネルを設置した。展示ケースは各二段で、上段に出土遺物を展示し、下段には展示遺物の補助・解説用の復元品等を配置した。西側の壁面沿いに縦型展示ケース2基を配置し、南側から弥生時代、歴史時代の出土遺物を展示し、ケース内に関連の解説パネルを設置した。歴史時代は、鎌倉時代と江戸時代の遺物を選定して展示した。南側の壁面には古墳時代須恵器大甕を配置し、壁面上部に古墳時代の解説パネルを設置した。中央には古墳時代の須恵器（山中池南遺跡第2地点）を展示し、東広島キャンパスの遺跡の特徴である須恵器生産の様子を示した。また、北側の壁面には歴史時代（中世）の解説パネルおよび年表を設置した。

これら常設展示とともに半年から1年程度を単位として、テーマ展示を行うこととし、入口部の南側に木製横型展示ケース1基と隣接壁面に解説パネルを設置することとした。2007年度は「中世の流通と交易」をテーマとした。鏡西谷遺跡、鏡東谷遺跡出土の中国産白磁・青磁、瓦器、備前焼、亀山焼、東播系須恵器、石鍋、硯、青銅銭などを展示して、地域の有力者のもとには交易を通じて各地から物資が集まっていることを解説した。

この他に、調査室前の通路を利用して、ガラス戸付スチール・キャビネット2基を設置し、実測道具、発掘調査道具の展示と解説、調査室刊行物の展示を行うこととした。

テレビ・新聞などマスコミの報道などもあり、展示室オープン後は多くの方々が来場があった。最終的に2007年度の入場者は1426名であった。

2) そのほかの普及活動

出土資料・記録資料の貸出については、出土遺物2件、記録資料2件の貸出を行った。内容の詳細は以下の通りである。

【出土資料貸出】

1. 鏡西谷遺跡中世土器 35点
貸出先 広島県立歴史博物館
貸出期間 2007年4月19日～6月31日
2. 西ガガラ遺跡旧石器時代石器ほか 37点
貸出先 広島県立歴史民俗資料館
貸出期間 2007年8月29日～12月14日

【記録資料貸出】

1. 鏡西谷遺跡全景航空写真ほか2点

貸出先 広島県立歴史博物館

貸出期間 2007年4月19日～6月31日

2. 西ガガラ遺跡第2地点旧石器時代遺物出土状況2点

貸出先 広島県立歴史民俗資料館

貸出期間 2007年8月29日～12月14日

出土資料の閲覧については、研究目的で合計21名の請求があり、随時対応を行った。ホームページの開設・公開については、2006年に大幅な改訂を行い、新たに「広島県内埋蔵文化財関係イベント」のページを設置した。県内の発掘調査等に伴う現地説明会、博物館等の展示会情報、講演会・シンポジウム情報、体験学習案内など、広島県の埋蔵文化財に関連する各種情報を紹介するもので、本年度も2週間に1度程度のペースで更新した。

東広島キャンパス内に保存されている遺跡のうち、公開可能な6遺跡（鏡西谷遺跡、西ガガラ遺跡第1地点、山中池南遺跡第1地点、同第2地点、鴻の巣遺跡、鴻の巣南遺跡）については、保存遺構を埋め戻して整地し、説明板を設置し、毎年草刈などの管理を行って学内外に公開している。公開遺跡は、本年度から年次計画を立てて整備を行っている（次節で詳述）。各遺跡への立ち入りは自由であり、管理のための施設や人員の配置を行っていないので、見学者の実数は不明であるが、学内の授業（総合科目「キャンパスの自然環境と環境管理」など）や各種見学会などに利用されている。

註

- (1) 藤野次史「普及・研究活動」『広島大学埋蔵文化財調査室調査研究紀要』第1号、105～110頁、2009年。
- (2) 初年度（2006年度）の総合博物館サテライトの整備については、埋蔵文化財調査室と生物圏科学研究科が対象となった。総合博物館予算としてサテライト整備費380万円が計上され、約191万円が埋蔵文化財展示室改修費として割り当てられた。

2. 2007年度（平成19）保管・管理活動の概要

東広島への統合移転に伴って過去約20年間にわたり発掘調査を行った。その成果を公開するため2002年度（平成14）から発掘調査報告書刊行を行ってきたが、刊行事業が一段落することから、本年度より発掘調査等ならびに報告書作成に伴う資料の保管と公開のための管理を年次計画に基づいて実施することとなった。発掘調査等の実施に伴う資料には、出土遺物、記録資料（遺構図面、写真フィルムなど）、報告書

作成に伴う資料は図面（遺物実測図、遺物分布図、遺構合成図面など）、写真（遺物写真フィルム、焼付け写真など）などがある。また、東広島キャンパス内には17ヶ所の遺跡保存区が設定されており、これらについても公開のための管理・整備を年次計画で行うこととなった。

1) 出土遺物の整理

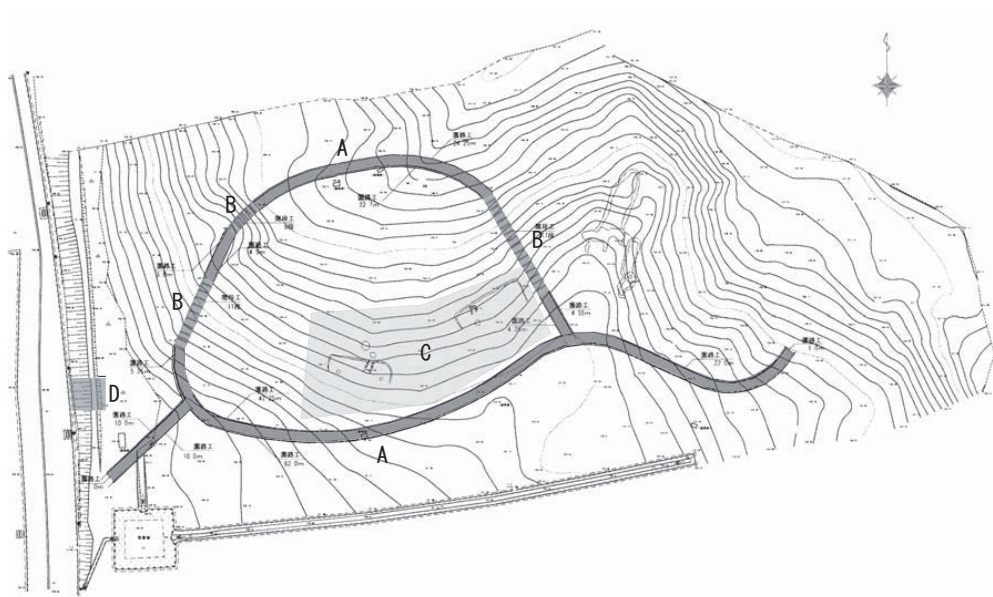
本年度は農場地区（鏡地区）出土遺物を対象に整理作業を計画した。10月まで報告書刊行のための整理・編集作業を行っていたため、11月から管理台帳作成などのための整理作業を行った。しかし、12月後半～3月上旬の立会調査の実施と報告書刊行作業のため、当初予定していた整理作業はほとんど実施できなかった。

2) 出土資料の保存処理

調査室所蔵の鉄製品の保存処理を計画したが、これについても上記の理由から作業を行うことができなかった。

3) 調査記録資料の整理・保管作業

年度当初は、報告書刊行作業終了後、農場地区関連資料（『報告書Ⅰ』関連資料）について整理作業を行う予定であったが、上記の理由から、ほとんど作業を行うことができなかった。



第 67 図 山中池南遺跡第 2 地点保存地区 2007 年度整備図
(A：散策道、B：階段、C 遺構上盛土、D：工事用入口掘削部)

4) 保存遺跡の管理・整備

東広島キャンパスにおいては、統合移転および統合移転後の開発に伴う試掘調査によって30遺跡を確認し、協議の結果、9遺跡については計画を変更して現状保存とし、18遺跡について発掘調査を実施した。さらに、発掘調査の成果に基づき協議した結果、部分的な保存を含めて8遺跡について現状保存を行った。この結果、現在17ヶ所が保存区として東広島キャンパス内に保存されている。

これらの保存遺跡については、1982～1986年度に鏡西谷遺跡（農場地区）の保存整備（芝貼り、散策道設置、説明板設置など）を行い、1987年度から鏡西谷遺跡保存区について年1回の下草刈（1990年度からは西ガガラ遺跡を追加）を実施してきた。また、2000年度には、一般公開が可能である西ガガラ遺跡第1地点、西ガガラ遺跡第2地点、山中池南遺跡第1地点、山中池南遺跡第2地点、陣ヶ平西遺跡、鴻の巣遺跡、鴻の巣南遺跡の7遺跡について説明板を設置し、山中池南遺跡第4地点、新池遺跡について遺跡表示板を設置した。

以上のように、一般公開可能な保存遺跡について、徐々にではあ



写真 39 散策道路用土搬入状況



写真 40 散策道路階段部分整備状況



写真 41 散策道路完成状況

るが、整備を進めているものの、発掘調査を実施した保存遺跡はいずれも保存のため遺構を埋め戻して芝貼りした状態であり、遺跡として実感することが困難な状態であった。遺跡の保存・管理の面からは大きな問題はないが、埋蔵文化財の公開の観点からはきわめて不十分な状況が続いていた。教育・普及活動への利用の観点からも、保存遺跡整備を一層促進をする必要があり、発掘調査を実施した遺跡については、本年度から年次計画を立てて少しずつ整備を進めることとした。

最初の整備遺跡として、東広島市道下見中郷線に面した山中池南遺跡第2地点（発掘調査地区）を選定した。整備は3年計画とし、古墳時代遺構の整備を行うこととした。山中池南遺跡第2地点遺跡の発掘調査地区は、旧石器時代～江戸時代の遺構・遺物が多数検出されたが、古墳時代後期の遺構が良好な形で残されており、住居跡1軒、工房跡1軒、須恵器焼成窯跡1基を復元整備し、これらをめぐる散策道を設置するものである。

本年度の整備作業は、2007年12月24日～2008年3月15日まで実施し、散策道路の設置（全体の約2/3）と遺構復元のための土盛を行った。整備作業の概要は以下の通りである。

12月24日～1日12日 整備工事のための測量。

2月18日 車両進入路の造成。車両進入路の一部については未調査部分が存在するため、立会調査を実施した（第2部調査編110～112頁参照）。

2月27日 遺構の保護と次年度以降の住居跡、工房跡復元のための土盛。

2月13日～3月15日 散策道設置。

散策道は、1号住居跡裾から2号住居跡（工房跡）裾へと辿り、2号住居跡の東側から丘陵平坦部へ上って、丘陵平坦部上の縄文時代立石状遺構、集石遺構（山中池南遺跡第6地点から移築保存）を通過して丘陵裾へ下りて再び1号住居跡裾へ戻る循環路と市道歩道から循環路へ接続するアクセス路、2号住居跡から須恵器焼成窯跡前庭部へと向うアクセス路である。循環路は住居跡裾から丘陵平坦部への上下道が階段で、住居跡裾および丘陵平坦部は平坦路である。アクセス路も平坦路である。平坦路は幅1mで、7号碎石を敷き、両側を直径10cm偽木で保護して、偽木はアンカーで固定した。階段は、幅1mで、直径7.5cm、長さ50cmの偽木を各段の左右に立てて深さ30cmまで埋設し、直径10cm、長さ1mの偽木を2段積にして土留めとした。階段部分は斜面に新たに土を足して傾斜を調整し、各段に7号碎石を充填して段を形成した。

整備に要した費用は、1,990,800円で、内訳は、散策道設置1,491,000円、住居跡・

工房跡復元のための土盛 499,800 円である。

3. 2007 年度（平成 18）教育・研究活動の概要

埋蔵文化財調査室の研究活動として、2008 年 2 月に東広島キャンパス移転に伴う発掘調査のうち、陣ヶ平地区の陣ヶ平西遺跡について発掘調査報告書を刊行した（『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－陣ヶ平地区の調査－』）。

また、埋蔵文化財調査室構成員の教育・研究活動については以下の通りである（普及活動を含む）。

1) 教育

- 藤野次史 「総合科目 キャンパスの自然環境と環境管理」（前期、総合科学部開講）、
2 回分を分担（「東広島キャンパスの埋蔵文化財」）
- 藤野次史 「博物館概論」（前期、文学部開講）

2) 講演・研究発表

- 藤野次史 「狩猟具から見た旧石器時代社会の変容と交流－後期旧石器時代後半の様相を中心として－」『考古学研究会第 53 回総会研究報告』（岡山市、岡山大学）
- 榎林啓介 「中国新石器時代の農耕文化の形成と変容」『第 36 回日本中国考古学会九州例会』（福岡市、九州大学）
- 榎林啓介 「北宋から南宋・金への墓制の変容－墓構造の考古学的分析を中心にして－」『東方学会第 57 回総会シンポジウム』（東京都、日本教育会館）
- 榎林啓介 「収穫具からみた中国新石器時代の農耕文化の変容」『第 17 回日本中国考古学会大会』（東京都、成城大学）

3) 論文など

- 藤野次史 「調査の成果」『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』広島大学埋蔵文化財調査室、167～194 頁。
- 藤野次史 「狩猟具から見た旧石器時代社会の変容と交流－後期旧石器時代後半の様相を中心として－」『考古学研究』第 54 巻第 3 号、考古学研究会、4～19 頁。
- 榎林啓介 「陣ヶ平西遺跡の古墳時代須恵器焼成窯跡出土須恵器をめぐって」『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』広島大学埋蔵文化財調査室、130～156 頁。
- 榎林啓介 「陣ヶ平西遺跡古代須恵器焼成窯跡出土須恵器をめぐって」『広島大学東広島キャンパス埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』広島大学埋蔵文化財調査室、157～166 頁。
- 榎林啓介 「中国新石器時代における農耕文化の形成と変容－黄河・長江流域の農耕具・

加工調理具を中心にして－」木下尚子ほか編『東アジアの文化構造と日本的展開』北九州中国書店、31～73頁。

槇林啓介「中国における日本人の考古・民俗資料の収集－主要考古雑誌にみる大陸の情報から－」芹澤知広・志賀和子編『中国における日本人の民具収集』風響社、26頁。

槇林啓介共著（西谷正編）『東アジア考古学辞典』（辞典）、東京堂出版。

槇林啓介訳（趙志軍著）「山東地区龍山時代（4600－4000BP）における農業経済の特徴とその分布（要旨）」『日本考古学協会 2007 年度大会研究発表要旨』日本考古学協会、42～43頁。

槇林啓介訳（趙志軍著）「山東地区龍山時代（4600－4000BP）における農業経済の特徴とその分布」『日本考古学協会 2007 年度熊本大会発表資料集』日本考古学協会、283～292頁。

槇林啓介「北宋から南宋・金への墓制の変容－墓構造の分析を中心として－」『東方学会 第57回全国会員総会シンポジウム 都市・墓・環境をめぐる歴史的空間－文理融合による日中比較－予稿集』東方学会、29～39頁。

槇林啓介訳（白雲翔著）「中国古代鉄器の起源と初期の発展」『第1回東アジア鉄文化研究会 東アジアにおける鉄文化の起源と伝播に関する国際シンポジウム』北九州市立自然史歴史博物館いのちのたび博物館、11～36頁。

2. 埋蔵文化財調査室の組織

1) 埋蔵文化財調査室設置要項

(趣 旨)

第1 この要項は、広島大学埋蔵文化財調査室の設置等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設 置)

第2 広島大学（以下「本学」という。）に、本学構内の埋蔵文化財の発掘調査等を行うため、広島大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

(業 務)

第3 調査室は、発掘調査等に関し次に掲げる業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) 調査資料の保管・管理および公開
- (5) その他必要な事項

(審議機関)

第4 調査結果等についての審議は、財務部に設置された施設マネジメント会議で行う。

(組 織)

第5 調査室に、次の職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 専任教員
- (3) 調査員
- (4) その他必要な職員

第6 室長は、副学長(財務担当)をもって充てる。

2 室長は、調査室の業務を掌理する。

第7 調査室の専任教員は、財務室施設マネジメント会議の推薦により、学長が任命する。

第8 調査員は、本学専任の准教授、講師、助教又は助手をもって充てる。

2 調査員は、学長が任命する。

(事務)

第9 調査室の事務は、関係部局の協力を得て、施設管理部において処理する。

(雑則)

第10 この要領は、本学における埋蔵文化財の発掘調査等が終了した日に、その効力を失う。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日 一部改正)

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成19年4月1日 一部改正)

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年6月27日 一部改正)

この要項は、平成19年6月27日から施行し、この要項による改正後の広島大学埋蔵文化財調査室要項の規定は、平成19年5月21日から適用する。

2) 組織 (2007～2010年度)

室 長

弓削孟文 (医療・施設担当理事)	2007年4月1日～2008年3月31日
清水敏行 (財務担当理事)	2008年4月1日～2009年3月31日
河本朝光 (財務・総務担当理事)	2009年4月1日～

調査室員

藤野次史 (大学院文学研究科助教授)	2003年4月1日～2007年3月31日
(埋蔵文化財調査室准教授)	2007年4月1日～
槇林啓介 (大学院文学研究科助手)	2005年4月1日～2007年3月31日
(施設部教務補佐員)	2007年4月1日～2008年4月30日
永田千織 (埋蔵文化財調査室教育研究補助職員)	2008年5月1日～
八幡浩二 (埋蔵文化財調査室教育研究補助職員)	2010年4月1日～
手島智幸 (施設部技能補佐員)	2006年4月1日～2008年3月31日
岩本三津子 (埋蔵文化財調査室契約技能職員)	2008年6月2日～

2. 埋蔵文化財調査室の組織

1) 埋蔵文化財調査室設置要項

(趣 旨)

第1 この要項は、広島大学埋蔵文化財調査室の設置等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設 置)

第2 広島大学（以下「本学」という。）に、本学構内の埋蔵文化財の発掘調査等を行うため、広島大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

(業 務)

第3 調査室は、発掘調査等に関し次に掲げる業務を行う。

- (1) 調査実施計画の立案
- (2) 発掘調査、分布調査及び確認調査
- (3) 調査報告書の作成
- (4) 調査資料の保管・管理および公開
- (5) その他必要な事項

(審議機関)

第4 調査結果等についての審議は、財務部に設置された施設マネジメント会議で行う。

(組 織)

第5 調査室に、次の職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 専任教員
- (3) 調査員
- (4) その他必要な職員

第6 室長は、副学長(財務担当)をもって充てる。

2 室長は、調査室の業務を掌理する。

第7 調査室の専任教員は、財務室施設マネジメント会議の推薦により、学長が任命する。

第8 調査員は、本学専任の准教授、講師、助教又は助手をもって充てる。

2 調査員は、学長が任命する。

(事務)

第9 調査室の事務は、関係部局の協力を得て、施設管理部において処理する。

(雑則)

第10 この要領は、本学における埋蔵文化財の発掘調査等が終了した日に、その効力を失う。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日 一部改正)

この要項は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成19年4月1日 一部改正)

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年6月27日 一部改正)

この要項は、平成19年6月27日から施行し、この要項による改正後の広島大学埋蔵文化財調査室要項の規定は、平成19年5月21日から適用する。

2) 組織 (2007～2010年度)

室 長

弓削孟文 (医療・施設担当理事)	2007年4月1日～2008年3月31日
清水敏行 (財務担当理事)	2008年4月1日～2009年3月31日
河本朝光 (財務・総務担当理事)	2009年4月1日～

調査室員

藤野次史 (大学院文学研究科助教授)	2003年4月1日～2007年3月31日
(埋蔵文化財調査室准教授)	2007年4月1日～
槇林啓介 (大学院文学研究科助手)	2005年4月1日～2007年3月31日
(施設部教務補佐員)	2007年4月1日～2008年4月30日
永田千織 (埋蔵文化財調査室教育研究補助職員)	2008年5月1日～
八幡浩二 (埋蔵文化財調査室教育研究補助職員)	2010年4月1日～
手島智幸 (施設部技能補佐員)	2006年4月1日～2008年3月31日
岩本三津子 (埋蔵文化財調査室契約技能職員)	2008年6月2日～